

レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 第2回交流会 活動報告書

日時：2018年4月14日 13:30～15:30

場所：京都府立医科大学基礎医学舎 第1講義室

内容：医師の講話とグループワーク

参加者：50人

レビー小体型認知症サポートネットワーク（DLBSN）京都は、平成29年11月にスタート研修会を行い、今回第2回の交流会を開催いたしました。DLBSN 京都は、神経内科医と精神科医、あるいは大学病院勤務医と開業医、看護職、福祉職、介護職等からなるケア専門職が協力し合って運営しています。今年は、年4回（1月、4月、7月、10月）開催する予定です。

第2回交流会では、精神科医である成本先生のレクチャーと神経内科医と精神科医、ケア専門職と参加者とのグループワークを行いました。以下にその内容（一部）を報告いたします。

➤ レクチャー「症状にうまく対処するための主治医との付き合い方」

講師：京都府立医科大学大学院・医学研究科精神機能病態学 成本医師

今回の講話のメインは「主治医との付き合い方」でした。その一部をご報告いたします。

まずは、レビー小体型認知症の症状について事例を用いてその症状を説明いただきました。そして、症状の中でも精神症状（せん妄、うつ、無気力など）とそれが生活に与える影響について詳しくお話しされました。また、薬物療法について、効果の可能性のある症状、無効な可能性の高い症状についての説明もありました。

主治医との付き合い方について、まずは、医師に症状をどう伝えるのか。それは、どんな症状があって、どう困っているのかを伝える。これまでに行った対応の工夫を伝える。紙に書いて診察前に渡す。薬剤の効果についても週単位の変化をできるだけ具体的に報告する。などの説明がありました。

別紙、資料参照。

➤ グループワーク

6グループにわかれ、1グループの当事者世帯を3世帯とし、医師やケア専門職が入りました。

1人1人の当事者の話に対して、医師やケア専門職、当事者がコメントしました。

レビー小体型認知症とアルツハイマーとの違いや境界、今後の進行、専門病院にかかりたいことをどのようにかかりつけ医に相談するのか、物とられ妄想・不安症状・幻視への対応、施設入所などについて各グループで共有し語り合いました。

➤ 参加者の声

家族：自分だけでないことに安心した ・心が解放できた ・聞いてもらったことがうれしかった

家族の困りごとを中心に専門職からのアドバイスがあることが大変良かった

専門職：当事者の実態を知ることができた ・家族の一生懸命な姿勢に自分達も頑張っていこうと思えた